



## 働く女性向けセミナー

国際医薬品原料・中間体展

CPhI から

# 社会進出「当たり前」でも障壁 輝くために意識改革を

製薬業界で働く女性たちのためのネットワークイベント「CPhI Women(CPhI Japan2016)」が

このほど開催された。カジュアルな会場には、会社や役職、年齢の壁を越えた「働く女性」が集結。女性の社会進出が期待されるなか、女性が抱える悩みや課題を共有し、その解決のための活発な議論

が繰り広げられた。

第2回を迎えた今回は、クラクソン・スミスクラインの伊東幸美執  
GSKの伊東  
執行役員が講  
演を行った

行役員(コミュニケーション部門長)が講師として登壇、発揮される女性力へ変化する医療業界で、女性はどうような貢献ができるか?と題した講演を行った。

今年4月、女性活躍推進法が施行された。伊東氏は、女性が社会で働くことは「もはや当たり前になった」とする一方で、女性の経験や知識を生かし切れていない社会を指摘。日本で働いている女性を対象としたアンケートなどを例に挙げ、「育児や介護が仕事を継続するうえで障壁となっている人がまだまだ多く、復職にたどり着けていない人もいる」と話した。

ただ、細やかな気配りや本来持つっている性質など、男性とは違う視点でその能力を生かせるチャンスはある。講演の後に行われたグループディスカッションでは、「女性は一歩引いてしまいがちだが、女性が職場に与えるプラスの影響があることを本人が認識するべきでは」と、女性自身の意識改革を提案する声が多く挙がった。また、出産や育児なライフイベントと仕事との両立については、「ロールモデルがないなら、自身で作っていく姿勢も必要では」と、女性が輝く社会作りには、男性の理解とともに女性側の勇氣ある行動が不可欠であるとの声も聞かれた。